

議会報告会における意見等に対する対応について

令和4年5月20日

三田市議会議長 様

経営政策常任委員長 松岡 信生

令和4年5月20日開催の経営政策常任委員会において、
下記のとおり処理方針を決定し、検討を行いましたので、ご報告いたします。

※他の委員会において所管する部分の対応を検討

市民からの意見等		班	市議会内で 検討を行うもの	委員会で検討 する	委員会への 参考意見とす る	市長等へ提 案・要望する
1	ウクライナでは地下壕を避難所に使用しているが、今後、三田市でも地下壕の整備を議会で提案できないか。 地下壕の整備については貴重な参考意見として受け止める。	1	経営政策常任委員会		○	
2	市民病院は市内唯一の出産可能な病院であり、市外へ移転されれば、出産できない市となり、人口減に拍車がかかると。現にコロナ禍もあり市民税、法人税もマイナスとなっている。市民病院は三田駅前Cブロック地区再開発事業に多額の市税を投入するのであれば、市民病院の補修費は投入できるのではないか。病院の減価償却は39年であり、築26年の市民病院は老朽化ではない。 ・三田市民病院は、市内で唯一出産可能な病院であるが、現状でも、合併症等ハイリスク出産は済生会兵庫県病院に依頼している。医師確保も含め、済生会兵庫県病院との連携により、妊婦や新生児の受け入れを行う周産期医療において、市民がより安心して妊娠・出産できる環境が充実すると考える。 ・三田市民の生命を守る急性期医療を維持・充実するために、改革プランに示す医療資源の集約化を進めることは、安心・安全の医療提供の一つと考える。 ・減価償却39年は経理上のこととであり、建築物の築後26年の経過は、老朽化が進んでいることに間違いはない。現時点では業務に支障をきたすような大規模な事象の発生はないが、経年とともに設備の劣化が進行し、小規模な水漏れ、蒸気漏れ等、断続的に発生している状況である。 ・三田市議会としては、4月13日に市民病院あり方特別委員会において、「北神三田地域の急性期医療の確保に關する検討委員会」の方針説明を受けたところであり、今後、神戸市・三田市・済生会兵庫県病院の三者で再編統合に向けた進め方が協議されるため、市議会としても、市民医療の重要案件と位置付け対応したい。	2	経営政策常任委員会 ※ 市民病院あり方特別委員会		○	
3	十数年前子どもの医療費は無料だった。今後の子育て世代の呼び込むため、子ども手当の支給を三田市独自で行うなど子育て世代の転入促進について伺いたい。 子どもの医療費については、数字は定かでないが、コンビニ受診もあつたと聞いている。子育て世代の転入促進としてはフラワータウンへの支援を試験的に始めようとしており、空き家対策で子育て世帯を呼び込みたい。こうみん未来塾は参加者も傾調に伸びている。学びのまち三田として、子育て支援策は三田市全域に広めていくべきだと思う。	2	経営政策常任委員会 (空き家対策、フラワータウンへの転入促進) 福祉教育常任委員会※ (子どもの医療費、こうみん未来塾、子育て支援策)		○	

市民からの意見等		班	市議会内で検討を行うもの	委員会で検討する	委員会への参考意見とする	市長等へ提案・要望する
4	<p>再編統合後の病院が神戸市内に建設されると、三田市内に夜間救急に対応できる病院がなくなってしまう。市民の多くは安心できる救急体制の維持を望んでいる。</p> <p>市民が安心できる救急体制の必要性は議会も共有している。</p> <p>必要医師確保など、様々な課題を抱える中、どのような方策をとれば、市民の命を守れる救急医療体制が持続的に確保できるかを考えていかねばならない。再編統合はその為の選択肢の一つではある。</p>	3	<p>経営政策常任委員会 (救急医療体制) ※ (再編統合)</p>		○	
5	<p>・身障協視覚部会の会員拡大に際し個人情報保護法の制約の中で当事者同士の間でどのような方法で情報を共有していくか。</p> <p>・災害時避難行動要支援者の支援計画(特に視覚障害者の避難計画)はどの程度進んでいるか。</p> <p>・市が行うイベントの際に、視覚障害者への配慮として紙資料だけでなく持ち帰り用の音声資料の配布ができないか。</p> <p>・同居人の補助に頼らずに自立したいため、健康管理に欠かせない音声式の血圧測定器や体重測定器について、日常生活用具の補助拡充ができないか。</p> <p>・JR三田駅から総合福祉保健センターに向かう動線が寸断される市役所駐車場前の信号機の音声式化を進めたい。</p> <p>信号機の音声式化については既に市から兵庫県警に対して要望しており、県警の判断を待ちの状況である。災害時避難行動要支援者の計画については、現在、市が各自治会と連携し、避難行動要支援者名簿の策定を進めている。名簿を地域団体と共有することに対する同意が現時点で約3000名分、内視覚障害者の方が80名となっている。個別支援計画の策定は災害危険箇所にお住まいの方(内、視覚障害者は23名)から優先的に取り組み、避難体制整備を急いでいる。日常生活用具については、個々の状況や課題により必要とされるものが多岐にわたり、種類も様々であり、その他の課題も含めて、実情をしっかりと見極め、当事者やサポートされる方の声を聞き、各々の立場に立って、最適な支援策を考え、市に適切な支援を要望していきたい。</p>	3	<p>経営政策常任委員会 福祉教育常任委員会※</p>		○	

議事報告会における意見等に対する対応について

令和4年6月6日

三田市議会議長 様

福祉教育常任委員長 佐貫 尚子

令和4年5月18日開催の福祉教育常任委員会において、
下記のとおり処理方針を決定し、検討を行いましたので、ご報告いたします。

※他の委員会において所管する部分の対応を検討

市民からの意見等		班	市議会内で 検討を行うもの	委員会で検討 する	委員会への 参考意見とす る	市長等へ提 案・要望する
1	今後、ウクライナからの避難民を受け入れ、三田市のまちづくりに寄与してはどうか。 ウクライナの避難民等に関する相談に関しては専門の窓口を設置し対応している。	1	福祉教育常任委員会		○	
2	子どもの健全な育成と、環境保全という観点からも、有機農業は大切である。学校給食に有機食材導入は、子育て世代の移住促進・半農半Xなどの小規模有機農家を活性化につながる。有機農業支援と学校給食で有機食材の使用について伺う。 就農時の農地借用の面積要件緩和や、有機農業実践者による成功体験等を語る各種研修会の開催により、就農者の拡大を図る。また、有機農産物の安定した出荷先が確保できるようJ・A等と連携し支援する。 学校給食での有機農産物の使用は、学校給食に適した食材の必要量（1日1万食）の確保が重要であり、その価格などを踏まえ上で検討する必要があるが、教育担当部局と農業担当部局が連携を図り、調査研究を進める。	2	福祉教育常任委員会 (学校給食への有機食材の使用 生活地域常任委員会※ (有機農業支援)		○	
3	ドローンでの農薬散布は、強い農薬を散布するため、周囲への影響も懸念される。同じ予算でたい肥場をつくる等有機農法の推進はできないか。また学校給食に有機野菜を取り入れることはできないか。 ・現在のラジコンヘリでの農薬散布も周辺住民の同意は必要であり、風の強い日は実施しない。有機農法の推進についてはJAS規格をとるための書類も膨大で農家も4人と少ない。低農薬のひようご安心ブランドの活用など皆様と共に取り組んでいく。 ・学校給食での有機野菜取り入れについては、現状では有機農家が少なく三田市の学校給食を賄うには量的な問題があるが、栽培農家を増やす取り組みは必要と考える。	2	福祉教育常任委員会 生活地域常任委員会※		○	
4	十数年前子どもの医療費は無料だった。今後の子育て世代の呼び込みのため、子ども手当の支給を三田市独自で行うなど子育て世代の転入促進について伺いたい。 子どもの医療費については、数字は定かでないが、コンビニ受診もあつたと聞いている。子育て世代の転入促進としてはフラワータウンへの支援を試験的に始めようとしており、空き家対策で子育て世代を呼び込みたい。こうみん未来塾は参加者も順調に伸びている。学びのまち三田として、子育て支援策は三田市全域に広めていくべきだと思う。	2	経営政策常任委員会※ (空き家対策、フラワータウンへの転入促進) 福祉教育常任委員会 (子どもの医療費、こうみん未来塾、子育て支援策)		○	

市民からの意見等		班	市議会内で検討を行うもの	委員会で検討する	委員会への参考意見とする	市長等へ提案・要望する
5	<p>・身障協視覚部会の会員拡大に際し個人情報保護法の制約の中で当事者同士のつながりをどのようにつくっていくか。</p> <p>・災害時避難行動要支援者の支援計画(特に視覚障害者の避難計画)はどの程度進んでいるか。</p> <p>・市が行うイベントの際に、視覚障害者への配慮として紙資料ではなく持ち帰り用の音声資料の配布ができないか。</p> <p>・同居人の補助に頼らずに自立したいため、健康管理に欠かせない音声式の血圧測定器や体重測定器について、日常生活用具の補助拡充ができないか。</p> <p>・JR三田駅から総合福祉保健センターに向かう動線が寸断される市役所駐車場前の信号機の音声式化を進めたい。</p>	3	経営政策常任委員会※ 福祉教育常任委員会	○		
6	<p>信号機の音声式化については既に市から兵庫県警に対して要望しており、県警の判断を待ちの状況である。災害時避難行動要支援者の計画については、現在、市が各自治会と連携し、避難行動要支援者名簿の策定を進めている。名簿を地域団体と共有することに対する同意が現時点で約3000名分、内視覚障害者の方が80名となっている。個別支援計画の策定は災害危険箇所にお住まいの方(内、視覚障害者は23名)から優先的に取り組み、避難体制整備を急いでいる。日常生活用具については、個々の状況や課題により必要とされるものが多岐にわたり、種類も様々であり、その他の課題も含めて、実情をしっかりと見極め、当事者やサポートされる方の声を聞き、各々の立場に立って、最適な支援策を考え、市に適切な支援を要望していきたい。</p>	3	福祉教育常任委員会	○		
7	<p>視覚障害者でも、個々の状態により課題や必要になる日常生活用具も様々であり、要望の出し方についても迷う事がある。今日は、参加されている市民の方にも視覚障害者について少しでも理解してもらおうと参加した。</p> <p>昨年度設置された郷の音ホールの点字ブロックについて、議会の協力に大変感謝しており、今後もサポートをお願いしたい。</p> <p>3月末に、郷の音ホール内に点字ブロックが設置されが、長い間、視覚障害者の方にはご不便をかけた。今後も視覚障害者の課題解消に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>聴覚障害者団体の主催の学習会は、手話通訳が必要となり、手話通訳者派遣費用は、主催団体の負担になる。他市では手話通訳派遣補助を行っている事例もある。議会でも取り上げていただけたらありがたい。</p> <p>聴覚障害者団体からこれまでもいくつか要望をいただいているが、まだ実現していないこともあるかと思う。議会に決定権はないが、市民の声を聞いて、各議員が当局に対し提案や要望を行うことはできる。過去には、この議会報告会での提案の『NET119』という緊急通報システム整備事業も実現した。議会報告会の意見交換のほか、三田市議会の取り組みとしてはグループで参加していただく『同いまず！さんた未来トーク』も実施している。市民が議員と意見交換し、議会から市へ要望する機会になるので利用を検討願いたい。</p>	3	福祉教育常任委員会	○		

議会報告会における意見等検討結果報告書

市民からの意見等 NO.5

福祉教育常任委員会

令和4年5月23日(月)13時30分開催の福祉教育常任委員会で協議

市民からの意見	<p>(1)市が行うイベントの際に、視覚障害者への配慮として紙資料だけではなく持ち帰り用の音声資料の配布ができないか。</p> <p>(2)同居人の補助に頼らずに自立したいため、健康管理に欠かせない音声式の血圧計や体重計について、日常生活用具の補助拡充ができないか。</p>
調査研究した内容 (現状、市当局確認内容、他市の状況、常任委員会での検討内容等)	<p>【(1)について市当局との質疑応答】</p> <p>○音声資料の配布については、どこまで可能と考えているのか。 ⇒事前に音声データの入ったCD等の媒体を準備することは可能だが、どのような会を対象にするのか、また必要な方が来られるのか不確かな状況で、すべての内容のデータを準備するのは現実的ではないと考えている。</p> <p>○ダウンロードしてもらう方法はどうか。 ⇒テキストデータがあるものは音声データへの変換も容易だが、チラシなど画像的な資料は、テキストデータに置き換える作業が改めて必要となり、どのように対応していくのか検討事項と考えている。</p> <p>【(2)について市当局との質疑応答】</p> <p>別紙重度障害者等日常生活用具種目表等資料も参考</p> <p>○視覚障害者用体重計の世帯条件の考え方や基準は。 ⇒家族が数値を読み取るなどのサポートの可否を基準としている。体温計も以前は世帯条件を付していたが、コロナ対策で必要性が増し、かつ生命に関わるものであることから、世帯要件を撤廃した。体重計はそういった状況ではないと判断し、世帯条件を維持している。基準額は、基本的に国1/2、県1/4、市1/4負担であるが、実際は国からの歳入は1/2以下であり、予算的にも種目や金額の増、条件緩和は容易でないため、議論しながら進めている状況である。</p> <p>○将来的に新たな種目や世帯条件等を検討するのか。 ⇒体温計だけでなく、令和4年4月より人工内耳用電池を新たに追加するなど、随時見直している。</p> <p>○これらの変更等は、市でできるのか。国県の方針を聞く必要はあるのか。 ⇒基本は市の判断となる。国からは種目を増やすだけでなく、見直すことも必要との指導はある。</p> <p>○今回の議会報告会において、血圧計の要望もあったが、他に当事者から要望はあるのか。 ⇒個々の方から窓口での相談はあるが、団体からの要望としてはない。他自治体において血圧計が認められているところはほとんどないと思われる。</p>

	<p>○血圧計は、日常的によく使用する必需品となってきたと思うが、他自治体や三田市が対象としていない理由はあるのか。</p> <p>⇒明らかな理由はない。平成 18 年施行の障害者自立支援法において、国が示した対象種目の目安がベースとなっている。新たな種目を加える場合は、今ある種目を見直すことも必要との国の指導もある。血圧計に関して、現在国からの通知等はない。今後の検討課題と考えている。</p> <p>【委員会での主な意見】</p> <p>(1)について</p> <p>○音声資料の配布については、今後アプリの開発などいろいろと進めばいいものが出てくるのではないかと思う。本日、当局からも課題等の説明もあり、過渡期の状況にあるようなので、現状を委員会として把握したで留めてはどうかと思う。</p> <p>(2)について</p> <p>○血圧計については、他自治体において、一般的なものとして取り扱われているところもあるので、市に要望してはどうかと思う。</p> <p>○日常生活用具は種目に応じた条件があることは理解できた。その時々に応じた対応が可能ということなので、現状としては委員会への参考意見として受け止めていいと思う。</p> <p>○市民からの意見に対し、議会として現状の確認ができた。議会としては今後も意見交換会のほか「伺います！さんだ未来トーク」など市民の声を聞く機会もあることを伝えている。今回は意見に対し質疑応答の内容など現状の確認ができ、市民の方からの意見に対し、三田市の取り組み姿勢が十分に認識できたということでしょうか。日常生活用具に関する意見は、個々状況により違うので、その都度要望書を議会に提出していただければよいと考えるため、今後検討していけばいい。</p>
<p>検討結果</p>	<p>★委員会への参考意見とする。</p> <p>上記質疑応答内容等により、音声資料の配布に関しては、現状及び課題が把握でき、技術面も含め今後検討すべき内容であることから、参考意見とする。</p> <p>日常生活用具に関しても、議会として現状把握ができ、また市民からの意見に対し、市の取り組み姿勢が十分に認識できた。これまでからも対象種目や条件等見直しがされており、その時々に応じ今後検討していくべきことから、委員会への参考意見とする。</p>

議会報告会における意見等検討結果報告書

市民からの意見等 NO.7

福祉教育常任委員会

令和4年5月23日（月）13時30分開催の福祉教育常任委員会で協議

市民からの意見	<p>聴覚障害者団体主催の学習会は、手話通訳が必要であるが、手話通訳者派遣費用は、主催団体の負担になる。他市では手話通訳者派遣について補助している事例もある。議会で取り上げていただけるとありがたい。</p>
<p>調査研究した内容 (現状、市当局確認内容、他市の状況、常任委員会での検討内容等)</p>	<p>【市当局との質疑応答】</p> <p>○今回の市民からの意見は、令和元年度の議会報告会で取り上げた市長への要望と、ほぼ同じ主旨内容である。その回答においては、主催者団体が費用負担することを基本原則とし、主催者団体負担による手話通訳者の設置がなされなければ、公費で負担するとある。今回の市民からの意見も主催者団体負担を、公費負担でしてほしいということかと思うが。</p> <p>⇒合理的配慮は、当事者団体であってもすべての団体が行うべきものであることを前提としている。三田市意思疎通支援者団体派遣事業実施要綱では、意思疎通支援者の派遣を受けた団体の費用負担が原則であるが、総会や大会など組織維持のために必要な活動を行う場合は市が負担すると定めている。当該団体からは市に対しても、団体内で行う学習会への補助について要望があるが、学習会に関しては、組織維持するものではないと判断し、団体において費用負担していただきたいとこれまで回答している。しかし、平成30年以降の要望等を受け、令和2年に三田市障害者等理解啓発事業にかかる意思疎通支援者派遣事業補助金制度を新たに設け、当事者団体が講演会など開催する場合、経費の1/2、上限3万円を補助している。このように要望等を受け対応はしているが、当事者団体からすると更なる補助を願っていると考える。</p> <p>繰り返すが、市の考え方の前提として、合理的配慮は当事者の方もすべきであり、すべてを公費負担するものではないとしているので、ある程度制限している。</p> <p>○三田市身体障害者福祉協議会を通じた当事者団体への補助金があると思うが、当事者団体が受けた補助金を、手話通訳者派遣費用としての活用は可能か。</p> <p>⇒当該団体が受けた補助金をこれらの経費への充当は可能と考える。市の派遣事業補助金は、普及啓発・理解啓発という前提を付け、広く一般の市民の方も講演会などに参加できることを条件としている。団体内部のみの学習会等は該当しない。</p> <p>○令和元年度の市長要望が、令和2年度新設の補助金につながったと理解しているのか。</p> <p>⇒当該団体の受け止め方は様々あるかと思うが、行政としては、なにか踏み出すような施策事業ができないかを検討し設けた制度である。</p>

	<p>【委員会での主な意見】</p> <p>○市としてどこまで支援しなければならないのかという問題はあるが、自分たちが学んだりするところまでは、何か支援があってもいいのではないかと思う。</p> <p>○市の補助金交付の対象事業として、「当該事業の開催は広く市民に周知されているものとする」という説明は理にかなっている。今回の要望は、団体内での学習会なので対象外とする当局の説明は納得できる。身体障害者福祉協議会などから様々な事業に補助金が交付されており、それを活用できるとのことである。</p> <p>健常者と同じような生活ができるというのが障害者差別解消推進法にうたわれているので現状のままということは難しいかもしれないが、当局の説明を聞けば、合理的配慮は、団体に負担すべきということで説明できるかと思う。その時々に応じて、今後様々な改正があればその都度耳を傾け取り組んでいければと思う。</p> <p>○当事者からすれば、少しでも健常者と同じ情報を得たり学習会ができたりすることは大事なことだと思う。さらに理解を深める必要があるかと思うが、今回は委員会への参考意見に留めればと思う。</p> <p>○市も補助金制度に基づき実施していることが理解できたが、必要な団体等がこの制度をどの程度知っているのか。令和元年度に要望としてあげているが、この制度の周知も含め、また将来的にもっと前に進んでほしいとの思いも含め、市長への要望として出してもいいのではないか。</p> <p>○聴覚障害者団体が実施した学習会について、議会報告会での意見交換会の場において、近隣他市では補助をしている自治体があるとの話があった。現行の補助制度における補助対象事業に学習会等も含めていくことを市長へ要望するのをもひとつと考える。全額補助は厳しいかと思うが、補助率 1/2、上限 3 万円の範囲で、補助対象事業の「当該事業の開催について広く市民に周知されている」という要件を外して、当事者での学習会等を含めることを要望するのはどうか。</p> <p>○本委員会としては、今の制度を更に拡充し、学習会等であっても補助ができるよう要望してもいいのではないかと考える。</p>
<p>検討結果</p>	<p>★市長等へ提案・要望する</p> <p>「三田市障害者等理解啓発事業にかかる意思疎通支援者派遣事業補助金制度」の市民への更なる周知及び補助金制度における補助率 1/2、上限 3 万円の範囲で、補助対象事業について「当該事業の開催が広く市民に周知されている」という要件を見直し、当事者での学習会等を含めることについて要望する。</p> <p>また、当該制度について市民への周知徹底も図るよう要望する。</p>

議会報告会における意見等に対する対応について

令和4年5月18日

三田市議会議長 様

生活地域常任委員長 檜田 充

令和4年5月18日開催の生活地域常任委員会において、下記のとおり処理方針を決定し、検討を行いましたので、ご報告いたします。

※他の委員会において所管する部分の対応を検討

市民からの意見等		班	市議会内で検討を行うもの	委員会で検討する	委員会への参考意見とする	市長等へ提案・要望する
1	<p>キッピーモーラーの三田阪急閉店後の空きテナントについて、今後の市の見解は。</p> <p>テナント誘致は、三田地域振興(株)が担っており、次期テナント出店に合わせ令和4年3月より内装工事に着手している。有名コーヒーショップの出店は決まったが、他のテナントについては商業戦略の事情も配慮し、しかるべき時期に発表される。</p>	1	生活地域常任委員会		○	
2	<p>三田駅前Cブロック地区第一種市街地再開発事業の予算額は。</p> <p>県知事の認可を得た事業計画では約250億円。このうち、市は都市計画道路整備費用の約23億円を負担する。残り約227億円は建物整備に係る費用であり、約160億円は再開発組合の自己財源、約67億円を県と市で1/2ずつ補助金として負担する。市の負担は合わせて約57億円となるが、その約1/2は国の交付金が財源のため、実質の市の負担は約28.5億円となる。</p>	1	生活地域常任委員会		○	
3	<p>駅前のメインストリートと呼ばれるような街並みができるのか。</p> <p>駅前通りに面した再開発事業では、7mの壁面後退線を都市計画で定め、ゆとりある歩行者空間の整備を進め、延長130m、幅30mのシンボル道路が完成する予定である。三田市既成市街地景観計画で三田駅前地区に個別基準を規定し、建築物が良好な街並み形成に資するように誘導し、賑わいづくりを推進したいと伺っている。</p>	1	生活地域常任委員会		○	
4	<p>三田市民のマンション管理組合が「マンション管理計画認定制度」の認定を受けるために、市として「マンション管理適正化推進計画」を作成してはどうか。</p> <p>現時点で市では、老朽化や管理組合の担い手不足がみられるマンションはないと聞いているが、築後35年以上のマンション急増も見込まれるため、今後三田市においてもマンション管理の適正化に向けた取り組みを進め、計画策定の必要性についても検討すると伺っている。</p>	1	生活地域常任委員会		○	
5	<p>一般社団法人マンション管理協会の「マンション管理適正評価制度」を積極的に利用できるように推進施策を講じてほしい。</p> <p>令和4年4月から一般社団法人マンション管理協会が実施するマンション管理適正評価制度の利用促進は、当協会会員であるマンション管理者が各マンション管理者等へ制度周知及び利用促進を図るものであると聞いており、市としては必要に応じて制度周知等に努めていくと伺っている。</p>	1	生活地域常任委員会		○	

市民からの意見等		班	市議会内で検討を行うもの	委員会で検討する	委員会への参考意見とする	市長等へ提案・要望する
6	<p>マンシヨン管理組合が他の管理組合との情報交換や交流を目的とした(仮称)三田市マンシヨン管理組合連絡会の発足施策を講じてほしい。</p> <p>マンシヨン管理組合連絡会の発足は、住民主体の住まいづくりを推進していくうえで有効な取り組みのため、今後、マンシヨンの管理状況や管理組合の意向等の把握を行い、発足の支援策等については検討していくと伺っている。</p>	1	生活地域常任委員会		○	
7	<p>子どもの健全な育成と、環境保全という観点からも、有機農業は大切である。学校給食に有機食材導入は、子育て世代の移住促進・半農半Xなどの小規模有機農家を活性化につながる。有機農業支援と学校給食で有機食材の使用について伺う。</p> <p>就農時の農地借用の面種要件緩和や、有機農業実践者による成功体験等を語る各種研修会の開催により、就農者の拡大を図る。また、有機農産物の安定した出荷先が確保できるようJA等と連携し支援する。</p> <p>学校給食での有機農産物の使用は、学校給食に適した食材の必要量(1日11万食)の確保が重要であり、その価格などを踏まえた上で検討する必要がある。教育担当部局と農業担当部局が連携を図り、調査研究を進める。</p>	2	福祉教育常任委員会※ (学校給食への有機食材の使用) 生活地域常任委員会 (有機農業支援)		○	
8	<p>ドローンでの農薬散布は、強い農薬を散布するため、周囲への影響も懸念される。同じ予算でたい肥場をつくる等有機農法の推進はできないか。また学校給食に有機野菜を取り入れることはできないか。</p> <p>・現在のラジコンヘリでの農薬散布も周辺住民の同意は必要であり、風の強い日は実施しない。有機農法の推進についてはJAS規格をとるための書類も膨大で農家も4人と少ない。低農薬のひょうご安心ブランドの活用など皆藤と共に取り組んでいく。</p> <p>・学校給食での有機野菜取入れについては、現状では有機農家が少なく三田市の学校給食を賄うには量的な問題があるが、栽培農家を増やす取り組みは必要と考える。</p>	2	福祉教育常任委員会※ 生活地域常任委員会		○	
9	<p>三田市の農業認定の面積は30アールだが神戸市等10アールの市もある。過去の議会で面積要件を下げることに前向きな副市長答弁もあったが、今後の進捗についてどう考えているか。</p> <p>農業認定は以前5反からであったが、現在は3反からである。国が大規模農家の支援を進める中、三田市は独自予算で小規模農家支援策である農機具購入補助事業も始まった。面積要件の進捗については引き続き所管常任委員会の中でも議論していく。</p>	2	生活地域常任委員会		○	
10	<p>台風等自然災害時の倒木防止対策効果や維持管理費の大幅削減効果が期待できるため、フラワータウン・ウッドタウンの歩道樹木を3分の1に減らしてはどうか。</p> <p>これまで議会からも同様趣旨の質問や要望を当局に対して行ってきた。特に、『根上がり』の課題については当局も重要視しており、あかしあ自治会と街路樹削減の協議を行った。しかし、草履上、街路樹を減らす事への抵抗感を持つ市民の声が大きくなり、また、このような市の動きに対して、否定的な報道もあり、樹木を削減するための合意形成への取り組みは後退した。市は現在、街路樹の適量化と適正な維持管理を目的に『街路樹の適正な育成・管理に向けた基本方針』の策定を進めており、議会としても市民とともに、適正な街路樹の維持管理のあり方を考えていきたい。</p>	3	生活地域常任委員会		○	

議会報告会における意見等に対する対応について

令和4年5月18日

三田市議会議長 様

市民病院あり方特別委員会委員長 今北 義明

令和4年5月18日開催の市民病院あり方特別委員会において、
下記のとおり処理方針を決定し、検討を行いましたので、ご報告いたします。

※他の委員会において所管する部分の対応を検討

	市民からの意見等	班	市議会内で検討を行うもの	委員会で検討する	委員会への参考意見とする	市長等へ提案・要望する
1	三田市民病院の土地探しに関する調査業務を、補正予算として計上しなければならぬ緊急性の理由は、令和4年1月17日開催の「市民病院あり方特別委員会」において、1月7日開催の「第4回北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」で急性期医療確保方策の方向性が示された報告を聞き、複数の議員からの「市として事前にできることは速やかに取り組み、特に重要となる新病院の整備候補地などは先行して調査するべきである」との意見を受け、整備候補地調査を先行して実施したものである。今後重要な要素になる「整備候補地」について、市内で条件が整った土地の状況を把握していない状態では、判断すらできないことから先行して調査したものである。	1	市民病院あり方特別委員会		○	
2	なぜ三田市民病院が神戸市北区の済生会兵庫県病院と三田市民病院の中間地点に整備されなければならないのか。現時点ではまだ何も決まっていない状況である。今後の交渉にあたり三田市内での候補地を調査しておく必要があるため、先行して実施することとしたものである。	1	市民病院あり方特別委員会		○	
3	補正予算可決前に指名競争入札に係る通知を出すことや、第5回検討委員会開催前に土地探しをするのはおかしのではないか。	1	市民病院あり方特別委員会		○	
4	補正予算可決前の手続を開始は、他の事案でも行われている正当な手続であり、予算が否決ならば、無効となる。また、第4回検討委員会でも方向性は示されており、第5回目はそのまゝとめ方の議論がなされたものである。 再編統合して新病院を建設すると莫大な費用がかかる。三田市外で建設された場合でも、三田市が費用を負担するのか。 再編統合については、場所も含めまだ決まらなかったものでなく、費用負担等についても未定である。	1	市民病院あり方特別委員会		○	
5	市民病院は市内唯一の出産可能な病院であり、市外へ移転されれば、出産もできない市となり、人口減に拍車がかかる。現にコロナ禍もあり市民税、法人税もマイナスとなっている。市民病院は三田駅前Cブロック地区再開発事業に多額の市税を投入するのであれば、市民病院の補修費は投入できるのではないか。病院の減価償却は39年であり、築26年の市民病院は老朽化ではない。 ・三田市民病院は、市内で唯一出産可能な病院であるが、現状でも、合併症等ハイリスク出産は済生会兵庫県病院に依頼している。医師確保も含め、済生会兵庫県病院との連携により、妊婦や新生児の受け入れを行う周産期医療において、市民がより安心して妊娠・出産できる環境が充実すると考える。 ・三田市民の生命を守る急性期医療を維持・充実するために、改革プランに示す医療資源の集約化を進めることは、安心・安全の医療提供の一つと考える。 ・減価償却39年は経理上のことであり、建築物の築後26年の経過は、老朽化が進んでいることに間違いはない。現時点では業務に支障をきたすような大規模な事象の発生はないが、経年とともに設備の劣化が進行し、小規模な水漏れ、蒸気漏れ等が断続的に発生している状況である。 ・三田市議会としては、4月13日に市民病院あり方特別委員会において、「北神三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」の方針説明を受けたところであり、今後、神戸市・三田市・済生会兵庫県病院の三者で再編統合に向けた進め方が協議されるため、市議会としても、市民医療の重要案件と位置付け対応した	2	経営政策常任委員会※ 市民病院あり方特別委員会		○	

市民からの意見等		班	市議会内で検討を行うもの	委員会で検討する	委員会への参考意見とする	市長等へ提案・要望する
6	三田市民病院はウッドタウンだけではなく市民の命を守っている。市民病院と済生会兵庫県病棟の統合、そして新病院建設は三田市にとって大きな財政負担となる。病院はまちづくりの根幹でもあるので現在地での建設を希望したい。 検討委員会からの報告書は、検討委員会として統合が望ましいということであり、それを元に市がどのようなかについて検討していかなくては、今はまだ何も決まっていけない。市からの提案があれば、市民のために何が一番良いのか議員として考えていくことになる。	2	市民病院あり方特別委員会		○	
7	市民病院の再編・建替えすれば、多額の資金が必要となり、その資金調達に大きな課題が生じると考えており、資金調達にSPC(特定目的会社)等の手法を使うのではないかと懸念しているが。 SPCは大型不動産を運営するために不動産を金融商品化し資金を調達する手法であり、病院の運営には馴染まないと考えられており、当局も考えていないとの回答があった。PFIは公共施設の運営に民間の資金や経営能力を活用する手法であり、検討される可能性は否定できない。北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会の報告でも、施設設備維持についても1つの病院に集約化をした方が医療機能向上と資金・資源投資の集中化という観点から望ましいと出ている。市は経営形態として地方独立行政法人や指定管理者制度を含む公立病院であり続けることを目指している。	3	市民病院あり方特別委員会		○	
8	再編統合後の病院が神戸市内に建設されると、三田市内に夜間救急に対応できる病院がなくなってしまう。市民の多くは安心できる救急体制の維持を望んでいる。 市民が安心できる救急体制の必要性は議会も共有している。PFIは市民の命を守るための選択肢の一つではある。必要医師確保など、様々な課題を抱える中、どのような方策をとれば、市民の命を守るための選択肢の一つではある。継続的に確保できるかを考えていかなくてはならない。再編統合はそのための選択肢の一つではある。	3	経営政策常任委員会※ (救急医療体制) 市民病院あり方特別委員会 (再編統合)		○	
9	市民病院の資金調達の手法についてSPCはあり得ないと考えてよいか。検討委員会でPFIに関する発言もあったが。 SPCについては考えにくい。市にもその考えは無いと確認している。PFIについては公共施設に民間の資金や経営能力を活用する手法であり否定はできない。先日、検討委員会から再編が最適との報告書の提出があったが、再編統合となれば当然多額の資金が必要になるが現時点で資金調達の方法に関して決定していることは無い。 今後、市や済生会兵庫県病院等、関係当事者が検討に入り、市も検討委員会からの報告書を参考にしながら、様々な意思決定を行うためのプロセスに入るが、議会は市から報告を逐一求め、市民の意見を聞きながらこれらに対応していきたいと考えている。	3	市民病院あり方特別委員会		○	
10	市民病院の再編統合に反対する団体のチラシを目にするが、これらに関する公式の情報が入ってこない。本日参加議員の発言を聞いていても、明確な見解はない。市民病院のあり方に関して市民からの声をどのように議会に届けられればよいか。 三田市議会が取り組んでいる相談者が団体であれば『伺います！さんだ未来トーク』、個人であれば『市政相談』を利用し、相談する方法である。意見交換ではなく、資料などの提供であれば、議会事務局に持参されれば常時対応できる。	3	市民病院あり方特別委員会		○	

議会報告会における意見等に対する対応について(アンケート自由意見)

令和4年5月18日

三田市議会議長 様

市民病院あり方特別委員会委員長 今北 義明

令和4年5月18日開催の市民病院あり方特別委員会において、
下記のとおり処理方針を決定し、検討を行いましたので、ご報告いたします。

※他の委員会において所管する部分の対応を検討

市民からの意見等	班	市議会内で 検討を行うもの	委員会 で検討 する	委員会への 参考意見とす る	市長等へ提 案・要望する
1 市民病院の問題が多く、議会も強く対策を求め説明する必要があると感じた。	1	議会改革推進会議※ 市民病院あり方特別委員会		○	
2 説明会というが、何も役に立つものがない。市民病院について、今のところで存続すべきだ！	2	議会改革推進会議※ 市民病院あり方特別委員会		○	
3 市民病院は今のままに残してほしい。	3	市民病院あり方特別委員会		○	

議会報告会における意見等に対する対応について(アンケート自由意見)

令和4年5月13日

三田市議会議長 様

議会改革推進会議委員長 美藤 和広

令和4年5月6日開催の議会改革推進会議において、
下記のとおり処理方針を決定し、検討を行いましたので、ご報告いたします。

※他の委員会で所管する部分の対応を検討

班	市民からの意見等	市議会内で 検討を行うもの	委員会で検討 する	委員会への 参考意見とする	市長等へ提 案・要望する
1	時間が短すぎた。	議会改革推進会議		○	
2	時間が足らず、意見交換の時間が満足できなかった。司会者が時間配分を考えていなかった、8人の参加がわかっているはずです。	議会改革推進会議		○	
3	1時間の設定には無理。説明に45分かかるとすれば2時間位の設定必要。	議会改革推進会議		○	
4	市民病院の問題が多く、議会も強く対策を求め説明する必要があると感じた。	議会改革推進会議 市民病院あり方特別委員会※		○	
5	コロナ対策で時間短縮は分かるが、議員の説明が早口でメモを取りにくいと感じた。行政は市民との対話が不足していると思う。市民病院に関する質問が多かったが、解答されていた議員さんはベテランの方に丸投げという印象を受けた。	議会改革推進会議		○	
6	1時間では少ない。	議会改革推進会議		○	
7	説明会というが、何も役に立つものがない。市民病院について、今のところで存続すべきだ！	議会改革推進会議 市民病院あり方特別委員会※		○	
8	もっと意見交換の時間をとらなければ、せっかく議員とフェイスtoフェイスなのに、なぜ、たった1時間なのか！	議会改革推進会議		○	
9	時間不足を感じた。	議会改革推進会議		○	
10	レジメを見ればわかる内容は説明する必要ない。市民との意見交換する時間を多くあるようにすべき(一問一答のみでは意見交換にならない)。	議会改革推進会議		○	
11	議員のみならずと市政について直接語り合えることはとてもよい制度と思います。またお忙しいとは思いますが、未来あるまちづくりのためにたくさんの市民の声をひろう機会を与えていただけたらと思います。	議会改革推進会議		○	

市民からの意見等		班	市議会内で 検討を行うもの	委員会で検討 する	委員会への 参考意見とする	市長等へ提 案・要望する
12	参考になったことが多かったです。ありがとうございました。	3	議会改革推進会議		○	
13	今後こういう機会があれば参加したいです。	3	議会改革推進会議		○	
14	直接予算等のお話が聞けるのでわかりやすかったです。また参加したいと思います。	3	議会改革推進会議		○	
15	ありがとうございました。	3	議会改革推進会議		○	